

定時社員総会及び研究会の報告

Report of the General Meeting of Members and Workshop of NAIS

青木 成一郎 (京都情報大学院大学)

Seiichiro Aoki (The Kyoto College of Graduate Studies for Informatics)

Abstract

General meeting of members of Nippon Applied Informatics Society (NAIS) and workshop of NAIS, which were held on 30 Jun. 2019, are reported in this article. The workshop consists of an invited talk and research presentations. The theme of the invited talk was on Sustainable Development Goals (SDGs). The research presentation covered topics in various research fields such as manga and animation, tourism, atmospheric aerosol, and ancient astronomy.

1. はじめに

一般社団法人日本応用情報学会 (NAIS; Nippon Applied Informatics Society) は、2004年8月に設立された日本応用情報学研究会を前身として研究会としてのこれまでの活動を発展させつつ、社会状況やビジネス環境の変化に対してより積極的に対応するために、会員を広く集め、研究対象領域の拡大を目指し2018年2月に一般社団法人化された。本稿では、2019年6月30日に開催された日本応用情報学会研究会及び2019年度定時社員総会の報告をする。当日のスケジュールは、研究会終了後に定時社員総会が招集されたが、ここでは、定時社員総会の報告をした後、研究会の報告をする。

2. 2019年度定時社員総会の報告

本定時社員総会は、京都情報大学院大学京都本校百万遍キャンパスで2019年6月30日(日)16時25分から招集された。高弘昇代表理事が議長として選任され開会が宣言された後、議決権を持つ正社員(正会員)51名のうち、委任状による出席も含めて45名が出席し、半数を上回る正社員が出席したことから、総会の成立が議長により宣言された。総会では、3件の報告があり、4件の議案が審議された。その報告は、(1)2018年度事業報告、(2)2019年度事業計画、(3)2019年度収支予算であった。また、審議された議案は、(1)2018年度決算公告及び監査報告の件、(2)定款変更の件、(3)正会員会費の件、(4)理事選任の件である。議案(1)については、決算報告がされた後、監事による監査報告が説明され、

承認された。議案(2)については、学会の運営を円滑にすることを目的とした定款変更の提案であることが説明され、審議された後、出席社員全員の賛成により承認された。定款変更には、社員の3分の2の賛成が必要であるが、全社員の約88%の社員が総会へ出席し、出席社員全員が賛成したため定款変更の要件を満たすものである。また、議案(3)は、出席社員全員の賛同により承認された。さらに、議案(4)についても、出席社員全員が賛成し承認された。この議決により、本定時社員総会で任期を迎える理事全員が次期も重任(再任)された。以上で本社員総会におけるすべての報告並びに議事の審議が終了し、同日17時をもって総会の閉会が宣言された。

3. 2019年度日本応用情報学会研究会の報告

本研究会は、京都情報大学院大学京都本校百万遍キャンパスで2019年6月30日(日)に総会に先立って開催された。参加者数は38名で、NAIS会員に加え、京都情報大学院大学、京都コンピュータ学院、京都自動車専門学校の学生や教職員も参加し、京都府情報産業協会や京都市総合企画局の方も参加した。本研究会は次の招待講演(1件)と研究発表(4件)からなる。

(1) 招待講演

浅利 美鈴 (京都大学大学院地球環境学堂准教授)
「SDGs 事始め 17の視点を活かす身近な事例のご紹介」

(2) 研究発表

1. 簡 逸威 (京都情報大学院大学講師)
「マンガ・アニメコンベンションの現状と課題」

2. 嘉島 叶人 (京都情報大学院大学助教)
「来京する外国人観光客のためのレジリエント・シティの実現に向けて - SNSの活用をめぐる」
3. 向井 苑生 (京都情報大学院大学教授), 佐野 到 (近畿大学), 中田 真木子 (近畿大学)
「大気エアロゾルと気候変動」
4. 作花 一志 (京都情報大学院大学教授)
「古代中国王朝開始についての天文学的考察」

招待講師として京都大学大学院地球環境学堂の浅利美鈴准教授をお招きし、「SDGs 事始め 17の視点を活かす身近な事例のご紹介」(関連研究 [1])というタイトルでご講演頂いた。(図1)講演内容は、SDGs (Sustainable Development Goals; 持続可能な開発目標)とは何かから始まり、福井県鯖江市でのSDGsの取り組みやネパールでの展開の他、浅利准教授が京都大学で学生と共に取り組む「エコ〜ど京大」の活動や小学校での実践例等の紹介もあり、SDGsの概念だけでなく、取り組みの実例も知ることが出来、参加者はSDGsに関する具体的な取り組みを検討する際の参考となる貴重な情報や知見を得たと考えられる。



図1 浅利准教授による招待講演の様子

招待講演に続く研究発表では、本学会学会誌NAIS Journal Vol.13の掲載論文を主なテーマとする発表が4件あった。簡逸威氏による「マンガ・アニメコンベンションの現状と課題」(関連研究 [2])では「ANIME JAPAN」を採り上げた研究、嘉島叶人氏による「来京する外国人観光客のためのレジリエント・シティの実現に向けて - SNSの活用をめぐる」(関連研究 [3])では観光客向けのサービスに関する研究、また、向井苑生氏による「大気エアロゾルと気候変動」(関連研究 [4])では大気エアロゾルによる地球の気候変動への影響に関する研

究、作花一志氏による「古代中国王朝開始についての天文学的考察」[5]では惑星会合などと中国の古代王朝の成立との関連に関する研究の発表があった。研究発表テーマは幅広く、マンガ・アニメ、観光、大気エアロゾル、古天文学など、様々な研究分野におけるトピックが扱われ、応用情報学会らしい研究会となった。参加者は、大学院や専門学校の教職員だけでなく、大学院生や専門学校生も参加しており、本研究会で得た情報が彼らの将来の活動において役立つことが期待される。

4. おわりに

日本応用情報学会では、今後も年に1回の頻度で学会誌NAIS Journalを発行し、研究論文や事例紹介を掲載する予定である。また、会員が掲載論文の研究等を発表する場として、研究会を今後も継続して開催する予定である。なお、日本応用情報学会は、広く会員を募集している。

謝辞

定時社員総会及び研究会は、京都情報大学院大学の多大なご協力により実施することができました。紙面をお借りし、関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

参考文献

- [1] Matsuda, T., Hirai, Y., Asari, M., Yano, J., Miura, T., Ii, R., Sakai, S. Monitoring environmental burden reduction from household waste prevention. Waste Management, 2018, vol.71, p. 2-9
- [2] 簡逸威. NAIS Journal, 2018, vol.13, p. 30-42
- [3] 嘉島 叶人, 内藤 昭三, 李 美慧. NAIS Journal, 2018, vol.13, p. 20-24
- [4] 向井 苑生, 佐野 到, 中田 真木子, Oleg Dubovik. NAIS Journal, 2018, vol.13, p. 52-56
- [5] 作花 一志. NAIS Journal, 2018, vol.13, p.78-84

◆著者紹介

青木 成一郎 Seiichiro Aoki

京都情報大学院大学准教授。
 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了(博士(理学))
 京都大学非常勤講師/京都大学天文台天文普及プロジェクト室室長
 平成25年度 文部科学大臣表彰 科学技術賞 受賞